

～はじめに～

# 目次

CADEWA Smartを操作してみましょう

1. CADEWA Smartを起動して、画面を確認してみましょう
  - CADEWA Smartを起動する
  - CADEWA Smart画面を確認する
2. 図面を開いて、画面を操作してみましょう
  - 図面を開く
  - マウスの使い方
  - 表示ビューの切り替え
  - CG表示
  - ウィンドウのレイアウト
  - 寄り合わせ
  - 断面表示領域の設定
3. コマンドを起動してみましょう
  - コマンドの起動方法
  - ハンドル
  - プロパティ
  - ヘルプの起動方法

## マウスの使い方



…指示位置をクリック (左クリック) します。



…指示位置をマウス右ボタンでクリックします。



…指示位置をダブルクリック (左2回クリック) します。



…マウスを表示位置に近づけます。



… [ Ctrl ] キーを押しながらクリック (左クリック) します。



… [ Shift ] キーを押しながらクリック (左クリック) します。



…マウス右ボタンをクリックしたまま移動します。

右ドラッグマウス移動

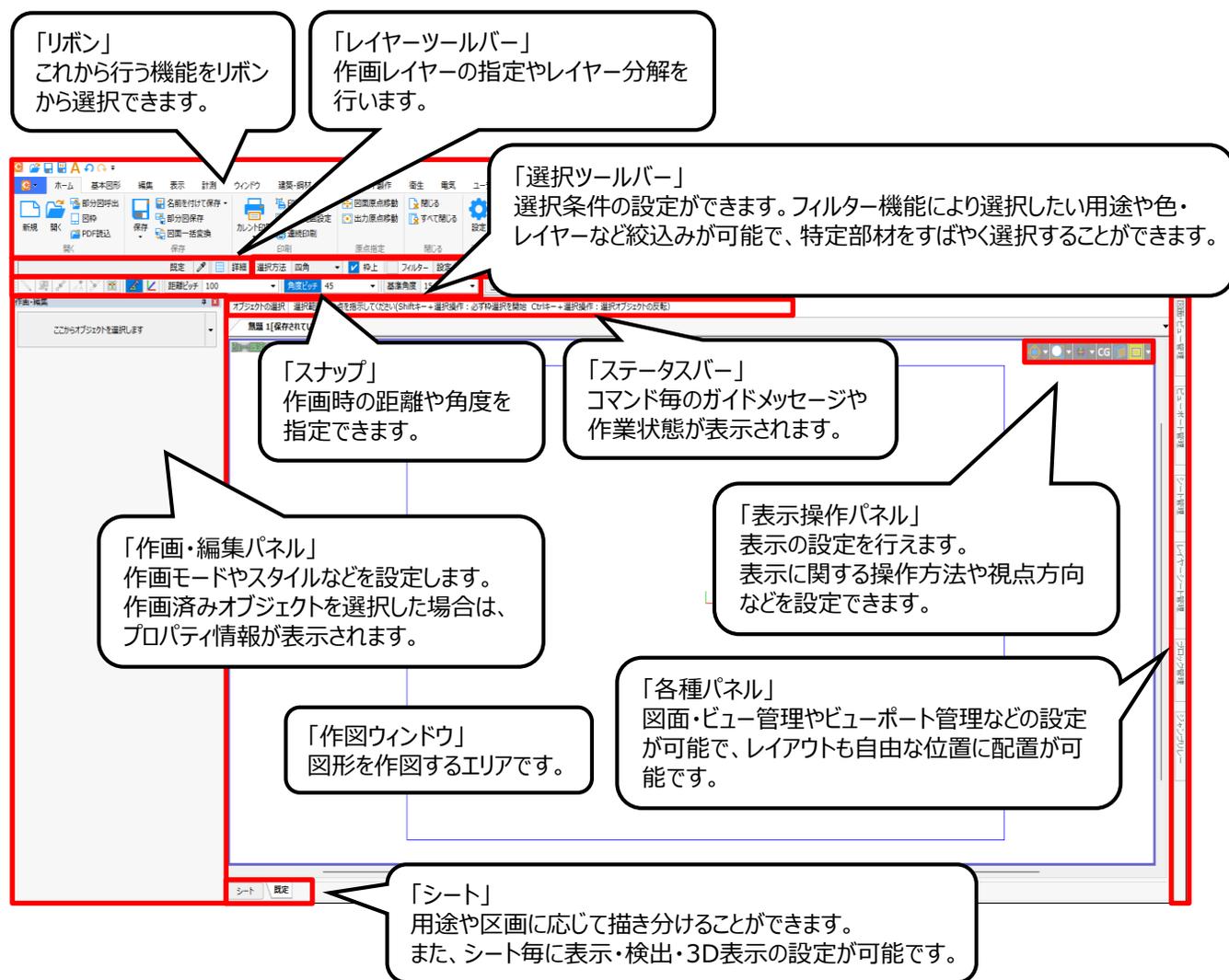
# 1. CADEWA Smartを起動して、画面を確認してみましょう

## ➤ CADEWA Smartを起動する

デスクトップ上の [CADEWA Smart] アイコンをダブルクリックします。



## ➤ CADEWA Smart画面を確認する



「リボン」  
これから行う機能をリボンから選択できます。

「レイヤーツールバー」  
作画レイヤーの指定やレイヤー分解を行います。

「選択ツールバー」  
選択条件の設定ができます。フィルター機能により選択したい用途や色・レイヤーなど絞込みが可能で、特定部材をすばやく選択することができます。

「スナップ」  
作画時の距離や角度を指定できます。

「ステータスバー」  
コマンド毎のガイドメッセージや作業状態が表示されます。

「作画・編集パネル」  
作画モードやスタイルなどを設定します。作画済みオブジェクトを選択した場合は、プロパティ情報が表示されます。

「表示操作パネル」  
表示の設定を行います。表示に関する操作方法や視点方向などを設定できます。

「各種パネル」  
図面・ビュー管理やビューポート管理などの設定が可能で、レイアウトも自由な位置に配置が可能です。

「作図ウィンドウ」  
図形を作図するエリアです。

「シート」  
用途や区画に応じて描き分けることができます。また、シート毎に表示・検出・3D表示の設定が可能です。



## パネル位置の初期化

パネルの位置を初期化したい場合は、リボンの「ウィンドウ」から「パネル位置と状態の初期化」をクリックします。

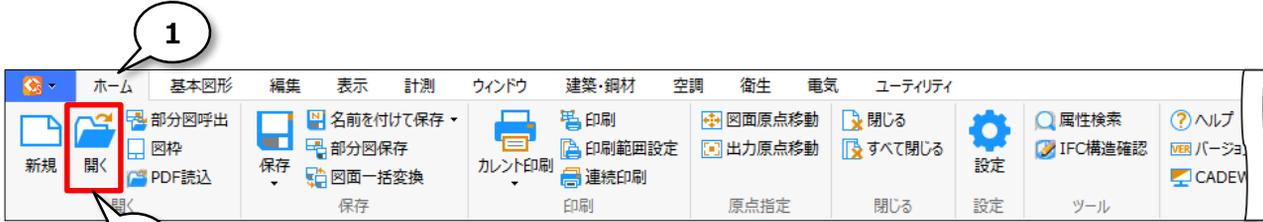


# 2. 図面を開いて、画面を操作してみましょう

## ➤ 図面を開く

使用する図面は [Smart\_40\_B01\_sample.ZDW]

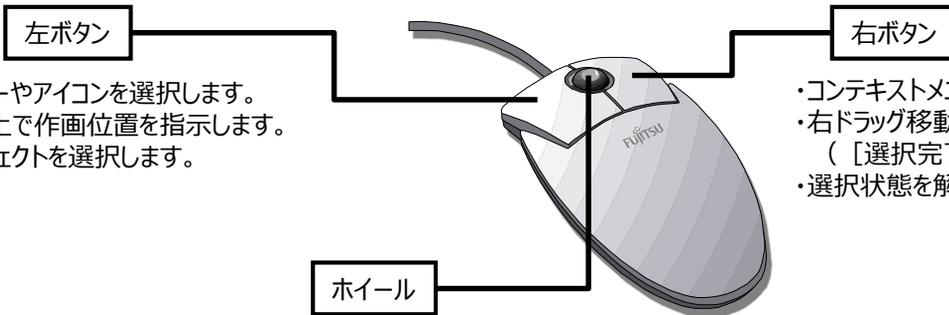
リボンの「ホーム」から「開く」をクリックします。  
ファイルを選択し、「開く」をクリックします。



CADEWA Smartで開くことのできる図面形式は次の通りです。

- CADEWA Smartの図面(\*.ZDW)
- CADEWA Realの図面(\*.ZDU;\*.ZDX)
- CADEWA Evolutionの図面(\*.ZD3)
- AutoCADの図面(\*.DWG)
- AutoCADのDXFファイル(\*.DXF)
- IFCデータファイル(\*.IFC)
- BE-Bridgeデータファイル(\*.CEQ)
- Jw\_cadの図面(\*.JWW;\*.JWC)
- Parasolid形式(\*.x\_t;\*.x\_b;\*.xmt\_txt;\*.xmt\_bin)
- Scalable Vector Graphics(\*.SVG)
- SXF仕様のファイル(\*.SFC;\*.P21;)
- Revitプロジェクト(\*.RVT)
- Revitファミリ(\*.RFA)

## ➤ マウスの使い方



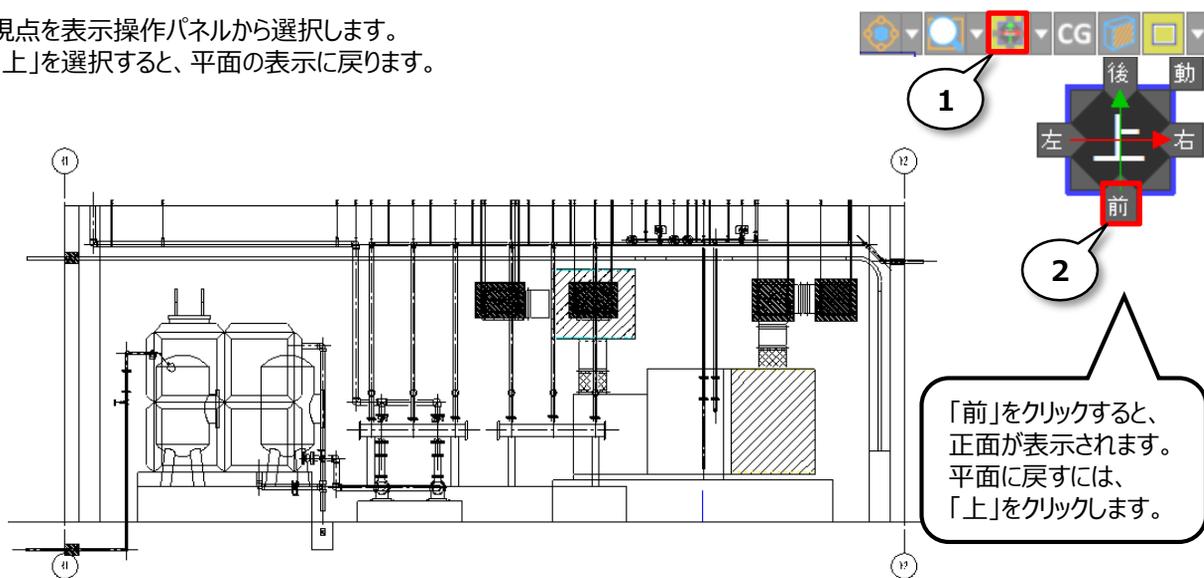
- メニューやアイコンを選択します。
- 画面上で作画位置を指示します。
- オブジェクトを選択します。

- コンテキストメニューを表示します。
- 右ドラッグ移動で [ Enter ] の動作 ( [ 選択完了 ] 、 [ 指示完了 ] ) になります。
- 選択状態を解除します。

- ホイールを回転すると画面を拡大/縮小します。
- ホイールを押しながら、マウスを移動すると、画面を移動します。
- ホイールをダブルクリックすると基準表示に戻ります。

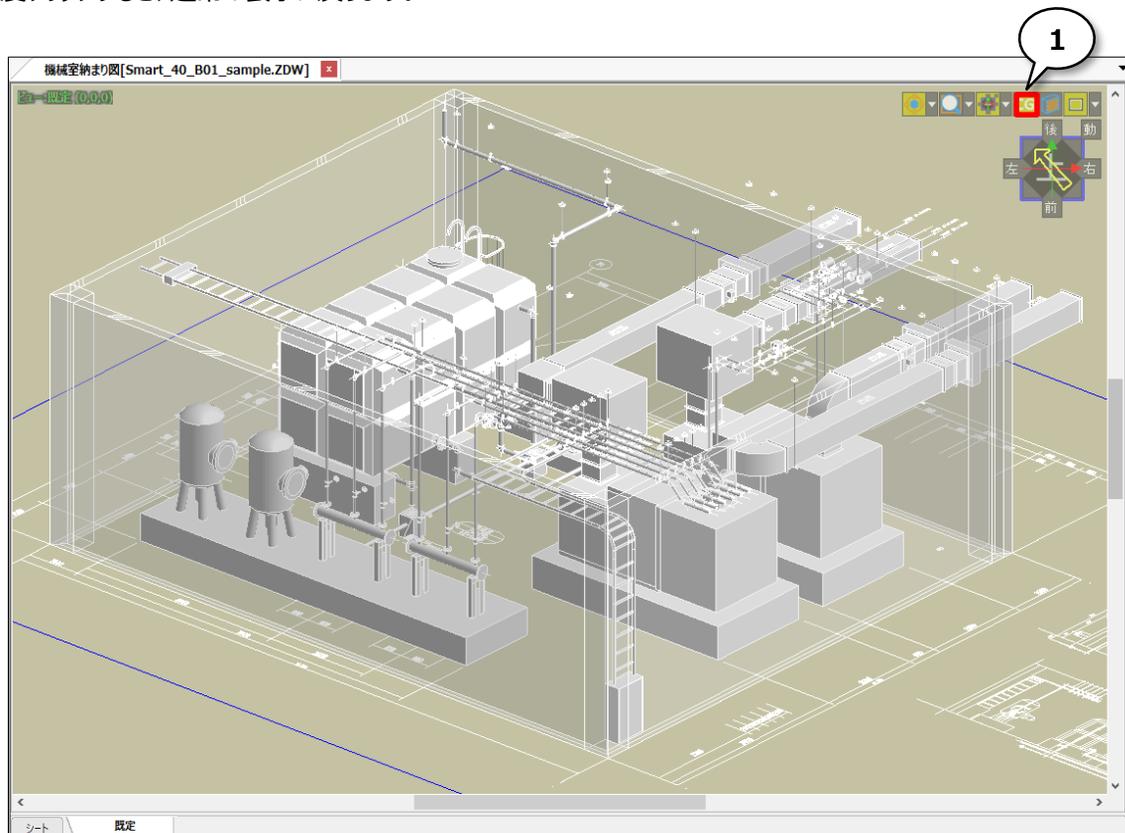
## ➤ 視点の切り替え

視点を表示操作パネルから選択します。  
「上」を選択すると、平面の表示に戻ります。



## ➤ CG表示

「CG」ボタンをONにすると、画面がCG表示に切り替わります。  
再度クリックすると、通常の表示に戻ります。



## ➤ ウィンドウのレイアウト

1

2

3

[カスタムレイアウト] では、現状のレイアウトを保存できます。

## ➤ 寄り合わせ

コンテキストメニューの「寄り合わせ」で、平面と断面の表示位置を合わせることができます。指示した部材を基準に平面と断面の位置が、基準となる画面と同じ表示倍率で表示され、位置が揃います。

1右

2

3

平面を←方向に見た状態を表示します。

平面を↑方向に見た状態を表示します。

「拡大表示」の場合

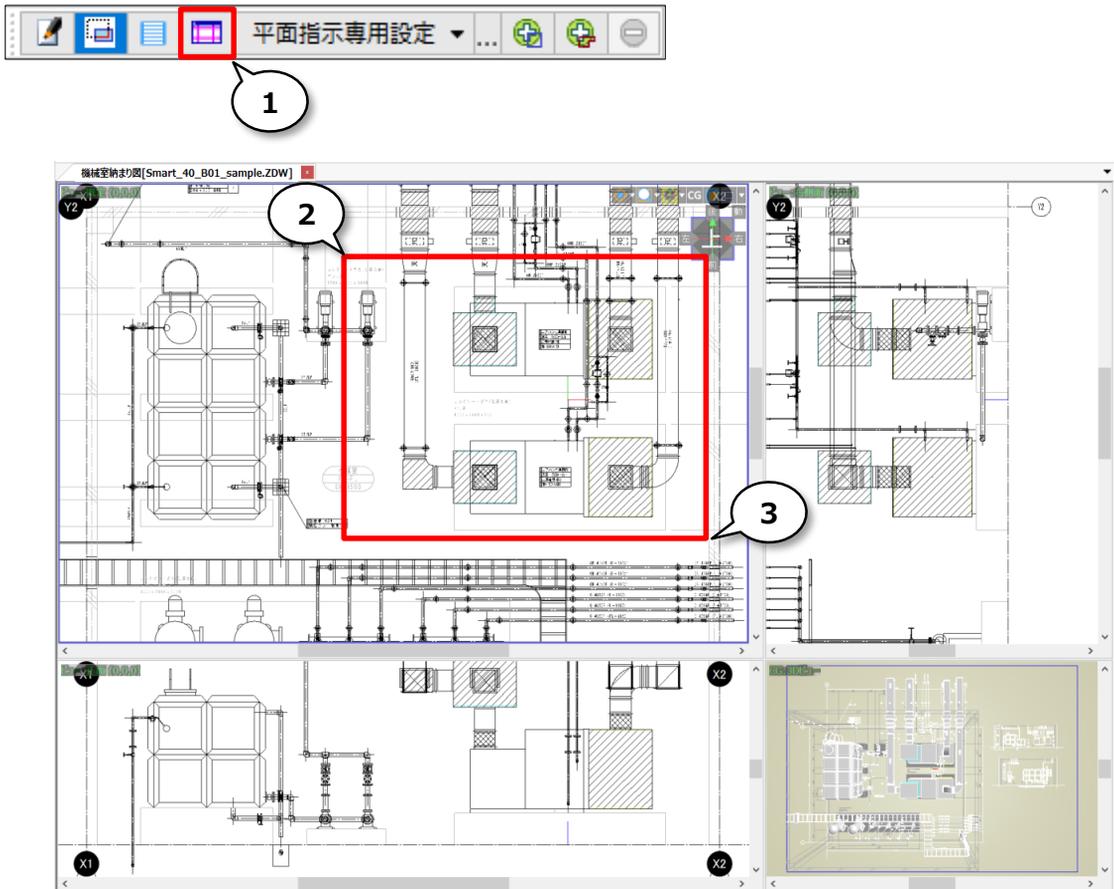
指示した要素を中心に、各画面の位置を合わせて最大表示します。

「等倍表示」の場合

指示した画面の表示倍率で、指示要素を基準に他の画面を揃えて表示します。

## ➤ 断面表示領域の設定

断面に表示させたい領域を平面で範囲指示します。  
指示した領域のオブジェクトが正面、背面、左側面、右側面に表示されます。



指示した領域を保存したい場合は、下の⑥もしくは⑦で領域設定します。



- ① 設定した断面表示領域の編集
- ② 設定領域の有効／無効
- ③ オブジェクト毎の断面表示設定
- ④ 平面専用断面表示領域の編集
- ⑤ 断面定義一覧の表示（設定した断面定義名称の編集）
- ⑥ 矩形で断面表示領域を設定（矩形内のオブジェクトのみ断面に表示）
- ⑦ 多角形で断面表示領域を設定（多角形内のオブジェクトのみ断面に表示）
- ⑧ 設定した断面表示領域を削除

# 3. コマンドを起動してみましょう

## ➤ コマンドの起動方法

次の方法でコマンドを起動します。  
オブジェクトの編集については、「ハンドル」や「プロパティ」から行うことができます。

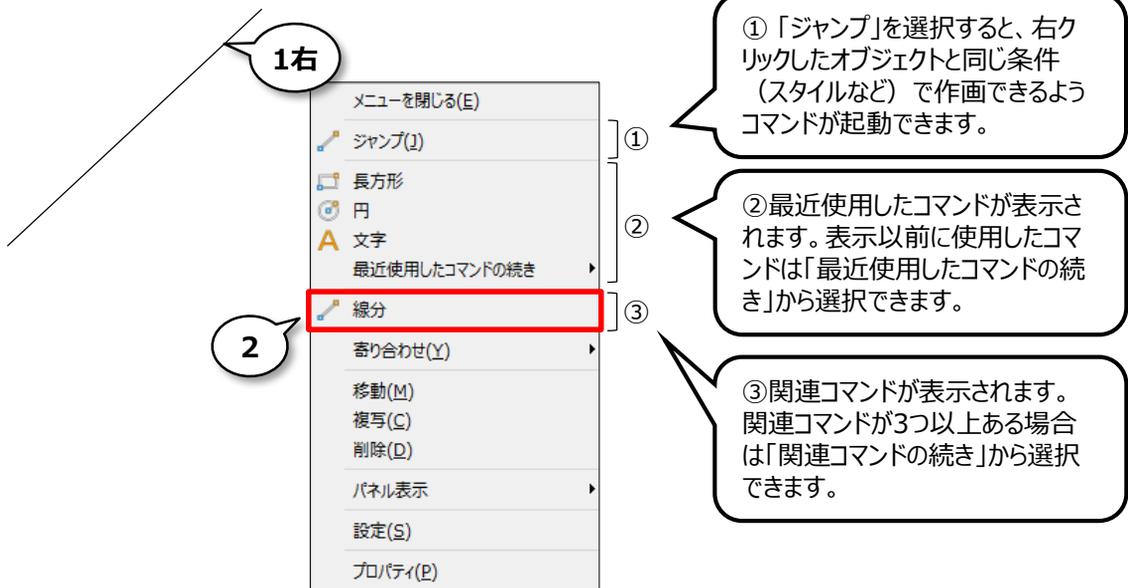
### ・リボン

リボンから目的のコマンドを選択します。



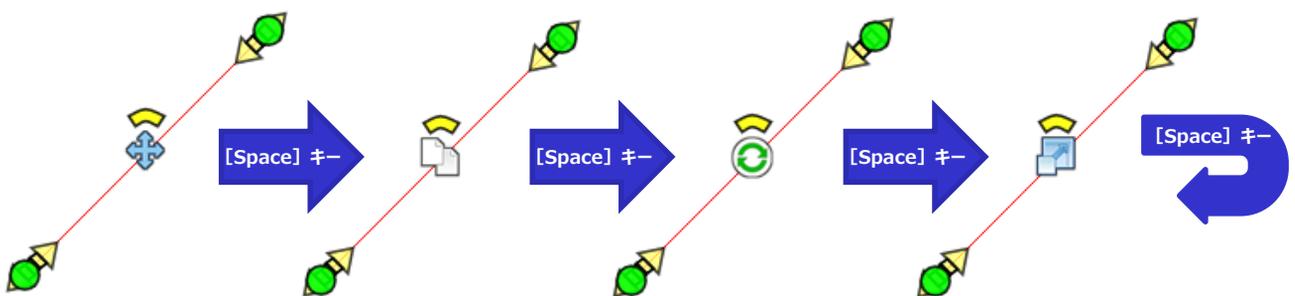
### ・コンテキストメニュー

作画されているオブジェクトの上で右クリックすると、オブジェクトに関連するコマンドと最近使用したコマンドが選択できます。



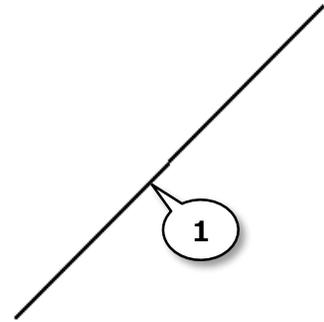
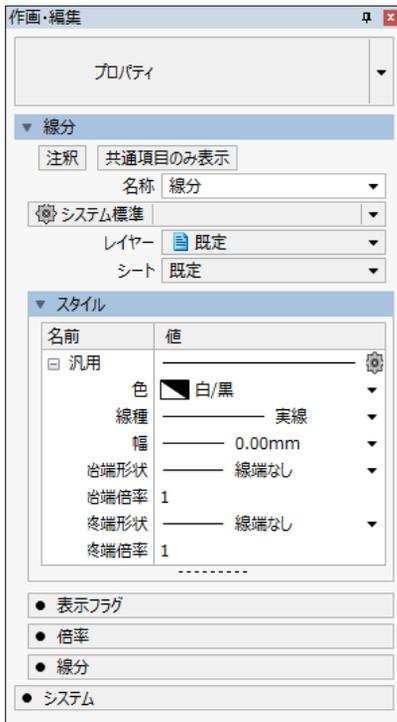
## ➤ ハンドル

コマンドが何も起動していない状態で、オブジェクトを選択すると、マークが表示されます。  
マークが表示された状態で[Space]キーを押すと、マークの種類が切り替わります。  
移動や伸縮など、行いたいマークをクリックし、オブジェクトを編集します。



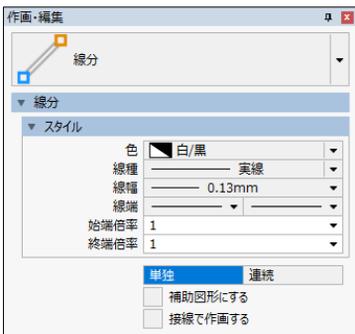
## プロパティ

コマンドが何も起動していない状態で、オブジェクトを選択すると、左パネルにプロパティが表示されます。作画済オブジェクトのスタイルやレイヤーなどプロパティで変更することができます。



## ヘルプの起動方法

コマンド使用中に [F1] キーを押すと、コマンドに関する [ヘルプ] 画面が起動します。



「線分」コマンド実行中に [F1] キーを押すと、「線分」コマンドのヘルプが表示されます。

